

# ステップアップ研修「研究授業」を終えて

地歴公民科 嶽釜 将

## 1 はじめに

本校に赴任して二年目の今年度、私はステップアップ研修の対象者として研究授業や研修を行っている。私自身、校内・校外の研修等を通じて教科教育・進路指導・生徒指導の多岐に渡る分野において、授業力や指導力のレベルアップを図ろうと考えている。今回の研修で特にレベルアップを考えていたのは教科教育である。私は地歴公民科の地理を専門としているが、次期学習指導要領の実施も踏まえ、今後の教科教育に求められる生徒が内容を理解し、主体的に活動しながら展開できる「アクティブ・ラーニング型」の授業にチャレンジしてみた。下部にステップアップ研修の教科教育分野における地理Bの研究授業の指導案、授業プリント、活用した資料を掲載する。

今回の研修でさまざまな指導・助言をいただきながら授業力を高め、「より理解できる授業」の完成を目指し、研修・研鑽を深めながら今後の教科教育に活かしていきたいと考えている。

## 2 研究方法

本校生徒の実情を授業観察の中から考察し、授業の進度を考慮し身近な題材にすることで、生徒が主体的に活動できるような分野を精選してみた。単元としては「人口、村落と都市」を考え、さらに“村落と都市”に決定し、今まで授業で学習してきた事を踏まえ、今自分が住みたいと考える“マチ”について東京・福岡・鹿児島市・屋久島の4つの“マチ”に絞り、「アクティブ・ラーニング型」の授業を展開できるように構成してみた。以下はその授業案である。

## 3 研究内容

### (1) 指導案

## 地理歴史科（地理B） 学習指導案

実施日時：平成29年10月30日（月）4限目

対象生徒：普通科3年1組（選択者20名）

使用教室：マーケティング室

指導者：嶽釜 将

科目名：地理B

使用教科書：『新詳地理B』（帝国書院）

：『新詳高等地図』（帝国書院）

使用副教材：『新編地理資料2016』（とうほう）

### 1 単元名：

第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察 第3章 人口、村落・都市 第3節 村落と都市

### 2 単元目標：

世界の人口、村落・都市などに関する諸事情を取り上げ、それらの分布や動向などについて考察させるとともに、現代世界の人口、居住・都市問題を大観させる。また、住居・都市に関わる問題は、世界的視野から見てどのような地域に生起している傾向があるか、各地に生起している現象にどのような要因が共通しているかなどの観点から概観させる。

- 3 小単元の指導計画：第3節 村落と都市・・・・・・・・・・・・・・・・計4時間
- (1) 集落の成り立ち・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
  - (2) 村落の形態と機能・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
  - (3) 都市の機能と生活・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
  - (4) 日本の都市・・・・・・・・・・・・・・・・1時間 (本時)

4 本時の主題：日本の都市 自由課題：私が住みたい“マチ”は？

5 本時の目標

- (1) 村落・都市の立地の生起について理解し，現代世界との繋がりを理解させる。
- (2) 与えられた4つの村落・都市の中で自分の住みたい“マチ”を決定し，既習事項の復習をしながらそれぞれのメリット・デメリットを理解させ，各々の今後の人生に役立てる。
- (3) 村落から都市への発達について理解し，記述できるようになる。

6 生徒観

このクラスは普通科3年1組の地理B選択者で，理系・環境コースの混合のクラスである。部活動に入部している生徒が大半で反応の良い生徒も一部には見られるが，比較のおとなしい性格の子が多い。教師の質問には少し消極的な側面もある。中には地理の教科が少し苦手な生徒もあり，興味・関心を持たせる工夫や，わかりやすい言葉を用いて説明することを心がける必要がある。しかし，全体的に普段の授業態度はよく，授業プリントもしっかり書いており，真剣に話を聞く姿勢がみられる。

7 評価

- (1) 与えられたテーマに主体的に取り組んでいる。【**関心・意欲・態度**】
- (2) 村落・都市の立地の生起や現代世界との繋がりを考えることができる。【**思考・判断**】
- (3) 自分たちで記述した解答例を相互に比較・検討させ，改善点を指摘させて考えることで，相互の思考力を高め，より良い解答例を作成できるようにする。【**知識・表現・理解**】

課程	学習内容	主な発問	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 (10分)	○挨拶・出席確認  ○本時の学習課題の提示	・村落・都市の立地にはどのような自然的、社会的要因があったか？  (前回復習)	・発問に対して積極的に考える。 <b>【関心・意欲・態度】</b> ・本時の学習内容を大まかに把握する。	・服装を正し、挨拶をしっかりさせる。 ・復習の問題に取り組んでいるか注意する。 〔机間指導〕
展開 (25分)	○4つ挙げた日本の村落・都市について、自分が住みたいところを決め、グループに分かれ、メリット・デメリットを挙げる。 ・東京 ・福岡 ・鹿児島 ・屋久島  ○各グループでまとめたメリット・デメリットを発表する。  ○他のグループからも上記の他に何かないか答えさせる。  ○授業者からのアドバイスを入れる。  ○各グループのまとめを見て住みたい“マチ”を改心したら変更する。	・東京、福岡、鹿児島、屋久島の中で今現在、自分が一番住みたい“マチ”はどこ？  ・東京、福岡、鹿児島、屋久島のそれぞれのグループで発表する。  ・他のグループの中でメリット・デメリットに気がついた人はいない？  ・今列举してくれた項目の他に以下のようなものがある？  ・今、それぞれ列举してもらったが、自分の住みたい“マチ”を改心したら、グループが変わってよい。	・まず各自の住みたい“マチ”を決めさせ、4つのグループに分ける。 <b>【関心・意欲・態度】</b>  ・各グループでそれぞれの“マチ”のメリット・デメリットについて付箋紙を使い、自分の知る範囲でまとめさせる。 <b>【関心・意欲・態度】</b> <b>【思考・判断】</b>  ・各グループの代表に列挙した項目を黒板に記入させ、発表させる。 <b>【関心・意欲・態度】</b> <b>【思考・判断】</b>  ・発問に対して積極的に考える。 <b>【知識・表現・理解】</b> <b>【思考・判断】</b>  ・新たに理解した項目に当てはまる“マチ”はどこか考える。 <b>【思考・判断】</b>  ・変りたい生徒がいたら変更させる。	・自分の現時点での住みたい“マチ”をしっかり決められ、グループに分かれたか注意して見守る。  ・グループで協力して、学習プリントにまとめさせる。  ・各グループの発表をしっかり聴いているか注意する。  ・1つの物事を多面的に見ることで違った側面やアイデアが出てくることを理解させる。  ・変更した生徒への配慮をおこなう。
終末 (15分)	○応用問題を解いてみる。  ○解答の完成 ○本時のまとめ	・“都市化”とは何か説明せよ。  ・解答の完成	・大学入試の過去問を解いてみる。 <b>【知識・表現・理解】</b>  ・全員で協力しながら解答を完成させ、本時のまとめをする。 <b>【関心・意欲・態度】</b>	・既習事項の復習をしながら、生徒がしっかり解いているか注意する。 〔机間指導〕 ・本日学んだことが、今後の自分たちの生活にどう生きてくるか理解する。



村落と都市

1. 村落・・・[1] ] (農林水産業) に従事する人々が住む集落

※立地

ポイント：① [2] ] が得られる (生活用・農業用) ②安全が確保される (自然災害・他者からの攻撃) … [3] ] 面 ③生業に便利 (働く場所に近い) …農業：[4] ]
--

2. 都市・・・[5] ] (商工業) を中心とした集落

※立地

ポイント：[6] ] (交易しやすいところ) に発達
----------------------------

3. あなたの住みたい“マチ”を選んでみよう。

私の住みたい“マチ”は・・・【 [7] ] → 【 [8] ]

[7] ]		[8] ]	
メリット		メリット	
デメリット		デメリット	
[9] ]		[10] ]	
メリット		メリット	
デメリット		デメリット	

4. 応用問題にチャレンジ

問い 【 [ ] ] ( [ ] )


(4) 各“マチ”に分かれて議論した結果，挙がってきた生徒の意見

## 【 東 京 】

メリット	<ul style="list-style-type: none"><li>・所得が高い。</li><li>・交通の便がいい。</li><li>・情報が集まる。</li><li>・いろいろなものがすぐ手に入る。</li><li>・店の数・種類が多い。</li><li>・職場（仕事）が多い。</li><li>・多くの国の人と交流できる。</li><li>・限定品が手に入りやすい。</li><li>・北朝鮮にミサイルを撃たれた時，地下鉄に避難できる。</li><li>・イベントが多い。</li><li>・学習塾や予備校が多い。</li><li>・大学が多い。</li><li>・オリンピックがある。</li><li>・国の主要機関が集まる。</li></ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"><li>・第1次産業があまりない。</li><li>・人工物が多いための環境問題。</li><li>・物価が高い。</li><li>・人が多い。</li><li>・土地が高い。</li><li>・治安が悪そう。</li><li>・事故が起こると広範囲で大混乱。</li><li>・心が冷たい。(?)</li></ul>

## 【 福 岡 】

メリット	<ul style="list-style-type: none"><li>・交通の要。</li><li>・栄えているわりには家賃が安い。</li><li>・食べ物がおいしい（ラーメン・水炊き）。</li><li>・博多弁がかわいい。</li><li>・都市部に行きやすい。 (飛行機の便数が多い。)</li><li>・福岡ソフトバンクホークスの球団がある。 (他のスポーツも含む。)</li></ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"><li>・水害が多い（九州北部豪雨など）。</li><li>・九州の中心だと自負している。</li><li>・黄砂がひどい。</li><li>・バスが渋滞する。</li><li>・コンサートが多いので，交通が不便になる時がある。</li></ul>

## 【 鹿児島市 】

メ リ ツ ト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元（屋久島）に近い。</li> <li>・お茶がおいしい。</li> <li>・温泉がたくさんある。</li> <li>・地元のもので食べられる。</li> <li>・本土とつながっている。</li> <li>・都会すぎず，落ち着く田舎あり。</li> <li>・移動手段にあまり困らない。ちゃんとある。</li> <li>・コンビニが屋久島に比べて圧倒的に多い。</li> <li>・東京・福岡に比べ栄えていないので，住みやすい。</li> </ul>
デ メ リ ツ ト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・灰が降る。</li> <li>・空気が少し悪い。</li> <li>・水が汚い。</li> <li>・東京・福岡よりは仕事が少ない。</li> <li>・物価（物件）に比べて，給料が安い。</li> </ul>

## 【 屋久島 】

メ リ ツ ト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水がよい。</li> <li>・空気がよい。</li> <li>・住人の心が温かい。</li> <li>・お金が貯まる。</li> <li>・アスレチック的要素がある。</li> <li>・地区ごとに方言がある。</li> <li>・子育てが最高の環境である。</li> <li>・ご飯がおいしい。</li> </ul>
デ メ リ ツ ト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天気の影響が大きい。（交通・観光）</li> <li>・雨が多い。</li> <li>・交通が不便。</li> <li>・コンビニがない。</li> <li>・屋内の施設が少ない。</li> <li>・世間知らずの人が多い。</li> <li>・屋久島時間（時間に少しルーズ）。</li> </ul>

## 4 おわりに

### (1) 所見

授業の最初に今まで学習した事の復習を発問しながら行ったが、大半の生徒がしっかり理解している様子であった。学習してきた事を踏まえて現時点での自分の住みたいマチについて分かれさせたところ、東京が5名、福岡が2名、鹿児島市が6名、屋久島が7名に分かれた。それぞれの“マチ”のメリット・デメリットを考えさせ、挙がってきた内容が前述の表のとおりである。各“マチ”とも活発な議論が展開され、都会への憧れや地元への郷土愛など各生徒の個性的な意見も出てきた。普段の授業の中でペアワークを実践していたが、グループワークなどを取り入れて行う授業が少なかったため、今後も積極的に実践しようと感じた。各“マチ”の意見を挙げた後、授業者である私から各“マチ”の他のメリット・デメリットを挙げると、生徒も非常に興味を持って聞いていたが、さまざまな意見を聞いた後、この時間の中で自分の住みたい“マチ”の変更したい生徒を募ったが、該当者は0人であった。今自分が住みたい“マチ”についてある程度の考えを持っており、その観念が固定されていることが推測される。また、人生における経験や見聞の機会が少ない高校生であり、且つ屋久島という離島で育った生徒たちであるため、さらに少ないのではないかと推測されるので、今後のさまざまな授業の場面で考慮しなければならない要素であると考えられる。

### (2) 生徒の変化

地理の授業の中でのグループワークは、久しぶりの機会であったので生き生きとしていた。その中でも各グループでリーダーを決めて積極的に討議し、意見の集約や発表など主体的に活動している様子が見られた。今まで受け身の授業が多かったが、このように生徒が主体的に活動するような機会を小さいケースでもいいので授業の中で展開していくことが重要であると感じた。

### (3) 研究のまとめと課題

研究授業終了後の授業研究の中で、以下のような意見や助言をいただいた。

- ・ 4つの“マチ”を挙げた理由やその根拠。
  - 関西方面の都市を入れてみてはどうか？  
理由：修学旅行で訪れている学年であり、都市の様子をイメージしやすい。
- ・ 地元：屋久島を入れたのはよかった。
  - 理由：各家庭を見ているので、子育てのしやすい環境であることを実感できる。  
テレビ番組でのデータ…日本人が選ぶ住みたい町ランキング第10位  
また家庭科においても学習した様子である。→ 教科横断型の学習指導の重要性
- ・ 4つの“マチ”についてそれぞれ1～4位の順位を付けた後、グループに分けたらもっとスムーズに移動しやすかったのでは？
- ・ 今回の授業展開の逆で、あえて生徒たちに強制的に“マチ”を当てはめ、メリット・デメリットを挙げるグループワークをさせる。その後、住みたい“マチ”を選択させる。
- ・ 住みたい場所だけだと、メリットばかりに注目される。よってディベートを複数化することにより、生徒も深く考えてしっかりと比較できる。
- ・ 2つ以上の事を同時にさせない。→ これからは生徒へのさらなる配慮が必要である。

上記意見および助言は、私自身が気付かなかった見知からの大変貴重なものであった。これらを踏まえて「アクティブ・ラーニング型」の授業の重要性を実感し、これに関する技能や知識が、私自身まだまだ不足している事を痛感した。今後は更なる研修・研鑽を深めながら「より理解できる授業」の完成を目指し教科教育に活かしていきたい。

最後に研究授業を行うにあたり、校長、教頭、地歴公民科の先生方をはじめ、多くの先生方にご指導・ご助言をいただきました。改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。